

い。さらに傾斜が緩くなった斜面を下るが、なおも水流は出てこない。向かいの斜面が近づいて来たあたりで、やっとめざす支流のほとりに出たが、もうかなり下った位置だった。

平凡なせせらぎを 40 分ほど進むと、林道に出合ってしまう。ここで林道に上がったのでは沢登りをした気がしないので、さらに下降を続ける。

やっと 3 m, 4 m, 2 m の滝が連続して出てくる。このあと少し下って丸木の橋をやり過ぎると、川床はナメになり歩きやすくなる。ナメ滝を越すと、この沢のハイライト、高さはないがそれぞれに深い釜をもつナメ滝が 3 個連続する。真中が手強く、フェルトのフリクションによって釜のへりを下降する。雰囲気はミニ中津川。植林地帯なので、暗い。

以後もナメが続き、歩きやすい。ナメが切れても、またすぐナメになる。平凡な流れになってしばらく下ると、また林道に出合う。ここで終了とし、林道に上がる。あとは白石川の本流にかかる橋を渡って、滑津の集落へと出た。

[タイム] 下降開始(12:50)→林道橋(13:55)→丸木橋(14:15)→林道・終了(14:50)→国道(15:10)

## 南会津只見川流域の沢

蒲生川支流岩茸沢

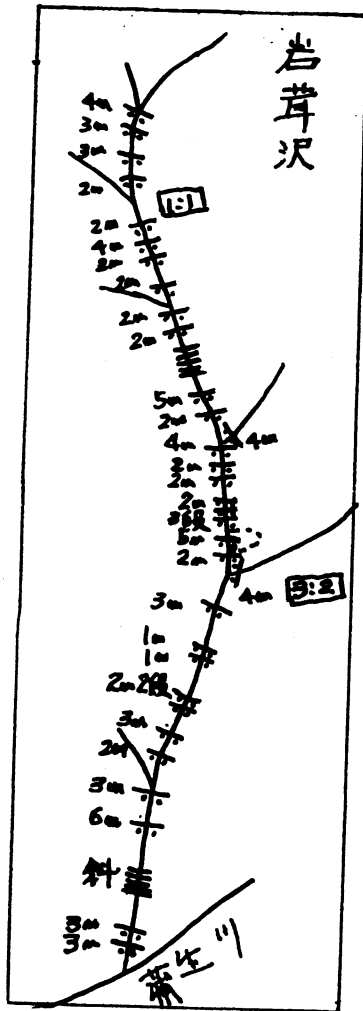
1996 年 7 月 27 日

L

林道歩きを覚悟していたが、林道のゲートは施錠されていなかったもので、林道終点まで送ってもらえ、1 時間は時間短縮となる。

林道終点より蒲生川本流までは踏跡があって、これを利用して下降する。本流を進むとほどなく岩茸沢の出合。岩茸沢には手頃な滝が連続している。いずれの滝も直登でき、ルンルンで先に進む。

岩茸沢出合から約 1 時間で二俣となり、左俣を進む。ほどなく 5 m の滝がかかる。二瓶君は右岸を強引に突破するが、年よりはクリアーできず、左岸の捲きと



なる。

その後適当に楽しませてくれる滝がかかり、遡行を続けていくと周りはブナ林に変わる。水も涸れ、緩傾斜地となったところで遡行終了とする。

(記・)

[タイム] 林道終点(8:00)→岩茸沢出合(8:15)→二俣(9:10)→遡行終了(11:00)

### 蒲生川本流

1996年7月27日

1

岩茸沢に入るパーティと別れ、平坦な河原を30分ほど歩くと、小さなゴルジュ帯。ここにナメ滝でつながったプールがあり、左岸のへつるが手強い。わずかなひっかかりに足をのせ、シューズのフリ

クションを頼りにへつる。しかし水は温く、危険はあまり感じない。へつりの練習といった趣である。続く7mの釜をもった滝は、右側を登る。ここは帰りに松沢さんの指導でアップザイレンの訓練に使い、プールでは泳いだ。

以後も平坦な流れが続くが、左から本流の3分の1程度の水量をもつ支沢を合わせると谷も狭まってくる。地図上の二俣からは、急に傾斜がきつくなった。

水量の少ない左の沢にルートを取り、滝をいくつか越える。やっと源流の雰囲気が出てきた所で、3

